

公認野球規則・アマチュア野球内規・高校野球特別規則、ならびにマスターズ甲子園代表OB試合規則による。
ただし、コールドゲームは適用しない。

①出場選手と出場チームについて

①出場選手と出場チームについて

- 1) 出場選手は元高校硬式野球部関係者（高校野球部部員、監督、部長、コーチ、マネージャーのOB・OG）であること。OB・OGとは高校野球部に一時期でも在籍したことのある者とする。
- 2) 出場選手は大学野球（準硬式を含む）、社会人野球（企業チーム・クラブチーム）の現役選手、ならびに現役のプロ野球関係者ではないこと。女性選手の場合も同様とする。
これらのOB・OGであるか、以下の場合については出場を認める。
 - ①軟式野球の現役選手である場合。
 - ②大学野球、社会人野球の関係者（監督・部長・コーチ・マネージャー）である場合。
ただし選手兼任の場合は不可。
- 3) 代表OB試合に出場するチームは、主催団体である全国高校野球OBクラブ連合に加盟し、マスターズ甲子園実行委員会が承認した地方予選リーグ参加OB校に限る。ただし選手個人については、地方予選リーグと甲子園大会の出場メンバーが異なってもよい。
- 4) 地方予選リーグから1チームを選出する。代表チームの選出方法は各リーグの判断に委ねる（複数OB校による合同チーム、個人選抜チーム、等々）。ただし、各リーグの同じ単独OB校による本大会連続出場の可否は各県に委ねる。
- 5) 代表チームの選手数は最低29名でベンチ登録されることとする。その内訳は、34歳以下が14名、35歳以上は15名で構成される。年齢については、開催年の4月1日時点を基準とする。ただし、34歳以下の選手の代わりに35歳以上の選手をもって充てることができる。その選手は4回以降も出場可能とする。
- 6) ベンチ登録者は、監督・部長・コーチ・代表者・マネージャーを含めて最大50名までとし、登録者は全員が試合に出場することができる。
- 7) 現役の高校野球指導者・関係者（監督・部長）が登録する場合には、「都道府県高野連届出書」に必要事項を個別に記入し、その地方の都道府県高等学校野球連盟に許可を事前に得ること。
（日本学生野球憲章・アマチュア問答集に基づく）

②投手規定

- 1) 34歳以下のイニングでは27歳以上とする。
- 2) 全て2イニング以内の登板とする（6アウトではない）。
なお、34歳以下のチーム及び35歳以上のチームの両方で登板する場合でも通算2イニングとする。

③試合方法・時間

- 1) 3回までを34歳以下のチームで行ない、4回以降を35歳以上のチームで行なう。4回以降は新たに1番打者から試合を行なう。ただし2回表終了時に試合開始後30分を経過している場合には、3回から35歳以上のチームで、新たに1番打者から試合を行なう。
- 2) 9イニング、もしくは1時間30分打ち切りとする（球場使用の時間制限のため）。延長戦は行なわない。
- 3) 各チームは、34歳以下のチームと35歳以上のチームのそれぞれのスターティングメンバーシートを3枚ずつ計6枚を、指定された集合時に係の者に提出すること。スターティングメンバーシートはマスターズ甲子園専用のもを使用し事前に配布する。

④DH制

DH制採用は各チームの選択による。

⑤試合球

マスターズ甲子園実行委員会公認硬式試合球を使用する。

⑥バット

マスターズ甲子園実行委員会が承認する硬式用金属バットを使用する。木製バットの使用も可。

⑦用具・ユニフォーム・その他

- 1) 硬式野球用具を使用すること。用具は全てチームで持参すること。
- 2) チームで統一された上下野球ユニフォーム（できるかぎり母校ユニフォームと同様のもの）を着用し、着帽のこと。ただし、世代によるユニフォームの違いは問わない（例：統廃合などで学校名が変更になった高校など）。ロングパンツの着用は禁止とし、ストッキングを見せるように着用すること。なお、背番号は試合出場メンバー全員が、ベースコーチも含め着用すること。背番号の重複は認めない。
- 3) 金属スパイクの使用は認める。スパイクの表面は黒一色とする。
ただし、スタンド内や室内練習場、開会式・閉会式ではアップシューズを使用すること。
- 4) 試合中、打者・走者及びベースコーチは必ず両耳ヘルメットを着用すること。
- 5) リストバンドとサングラスの着用は禁止する。ただし、けが等の身体上の理由により着用が必要な場合には、事前に実行委員会に申し出を行ない許可を得ること。

⑧代表OB試合出場チーム監督者会議について

大会前日に、試合進行と球場使用についての確認と諸連絡に関する監督者会議を行なうので、各チームの監督（もしくは代理代表者）はその会議に必ず出席すること。